

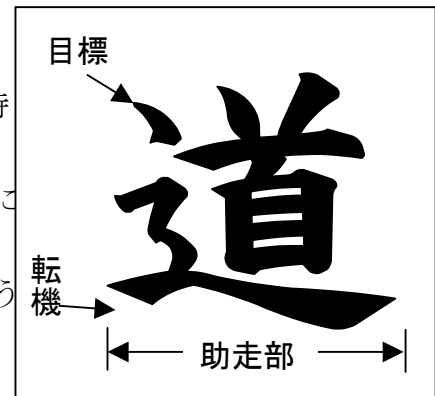
## 「道」という文字に学ぶ

### 1. 「道」という文字

右掲は、「道」と字を大書したものです。もう15年ほど前に、ある方から「道という字は、首をかけて曲がりくねった道を信念を持って歩み続ける事だ！」と教わったことがありました。私は、この教えがズーと頭から離れないのです。この話を何度もお客様に話しているうちに、右掲のようになったのです。

孔子は、15才で学に志し、30才で而立したと言われているように、誰でも長い助走期間があるのです。この助走の間に「知識・経験・根性」の3拍子を養うことが重要なのです。このような長い助走期間を経て、ある時、自分の「目標」(信念)を悟るのです。孔子は、これを30才の時に悟り、師匠から独立して「30にして、立つ」ということを行ったのです。この転機を悟り、自分の目標(信念)を明確にして、迷わずに曲がりくねった人生を歩むことが大切なのです。

「首」をかけて歩むという事は、この「悟り」を得てからの話なのですが、最近の方々を見ていると「いつになったら而立するの？」と聞きたくなるような状況なのです。例えば、幹部社員と呼ばれる方々の中にも「指示待ち族」が多いのです。嘆かわしい状況と思っています。



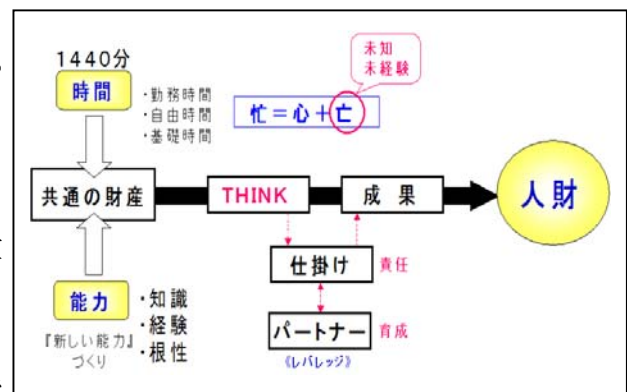
### 2. 「THINK」と「道」

「THINK」は、IBM社のスローガンで有名です。この「THINK」には、エピソードが隠されていて、それは、IBMの創業者であるT. ワトソンが、部下に「THINK」と怒鳴ったという事があったのです。IBMのような会社でも「会長、どうしましょう？」と依存する幹部がいたのです。見かねたT. ワトソンが「考えよ」と叫んだ訳です。

私は、このエピソードから右掲の図を描いたので

す。「THINK」→「仕掛け」→「パートナー」→「成果」という流れを創れる人が「人財」なのです。「仕掛け」には、新しい「技術」や「やり方」を考案したり、商品・サービスなどの提供の仕方を考案するものもあるのですが、誰もが「成果」という点で立ち止まり「THINK」を次のレベルに移せないのです。つまり、「責任」とするという覚悟に欠けるのです。

「首」をかけて長い道を歩むという点は、この「首」＝「責任」なのです。サラリーマン根性という表現が適切ではないかも知れないのですが、「事なかれ主義」に陥り、保身にやっきになる人が多くなったのです。真の「人財」と呼ばれるには、「THINK」→「仕掛け」→「パートナー」→「成果」という事が実践できることが重要なのです。「THINK」＝「首」＝「責任」なのです。信念を持った「THINK」であって欲しいのです。



#### 【まとめ】

1. 「道」＝「首」＋「しんにゅう」・・・長い道を首をかけて歩む覚悟が重要である
2. IBMの「THINK」は、「指示待ち族になるな！」という創業者の発言から生まれている

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryu.html> でご覧になれます！】